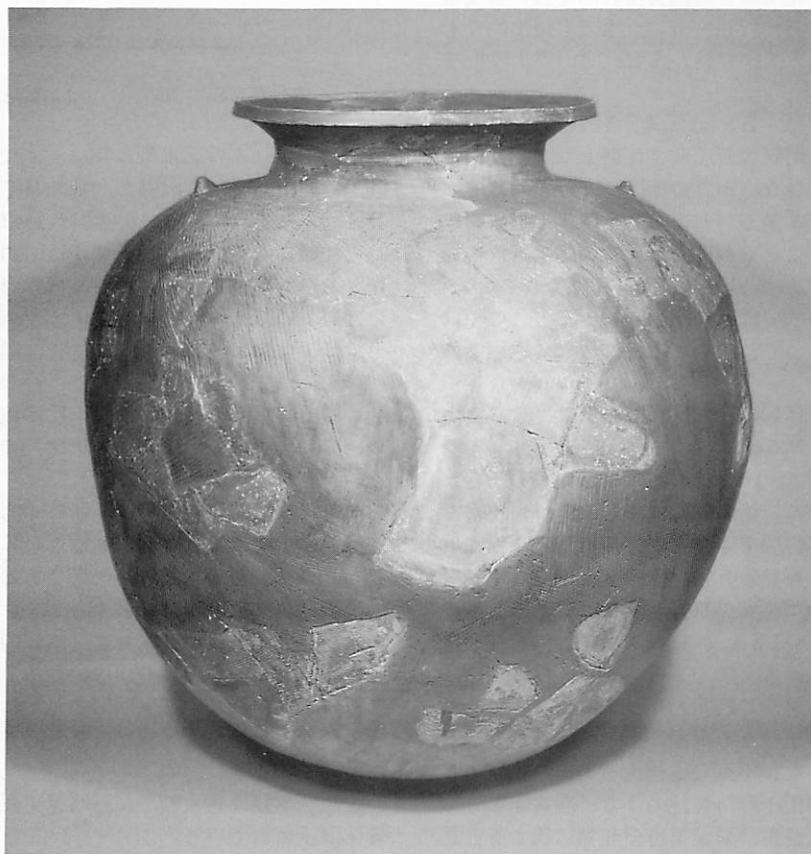


大 博物館だより

1991. 4
No. 5

津山郷土博物館



陶質土器甕 津山市教育委員会蔵

津山市押入西1号墳（直径12.5mの円墳）の墳丘東斜面から周溝埋土にかけて、墳丘から落下した状態で出土したものである。口径25.3cm、胴部最大幅48.5cm、復元高48cm。撫肩の胴部に短い頸部と外反する口縁部がつく。口縁端部は上下にわずかに拡張する。頸部に1条の突帯がめぐる。肩部には乳状の突起がつくが、対になるかどうかは不明。底部は丸底。器面口頸部は横なで仕上げ、胴部には斜行の平行叩き目を施すが、下半は不定方向の細かい刷毛目によりすり消される。内面頸部はなで仕上げ。胴部は指頭などで全面叩き目をすり消す。底部にはシボリコミ技法が認められる。細かい砂粒を少数含み、灰褐色で軟質である。

本土器はいわゆる楠見型土器に属する。楠見型土器とは和歌市楠見遺跡から出土した特異な壺・甕・高杯・器台のセットを標式とする土器群で、甕では肩部に乳状の突起をもつことを特徴とする。このような土器は朝鮮半島の洛東江中・下流域に広汎に分布するが、国内では和歌山市を中心に大阪府・香川県・岡山県（本例）に10遺跡が知られているのみである（武内雅人「紀ノ川下流域出土の初期須恵器に関する覚え書」『求真能路』歴史堂書房 1988年）。このように本土器は朝鮮半島南部からの渡来人と密接な関連をもつ遺物であり、美作の渡来文化を考える上での重要資料である。

資料報告

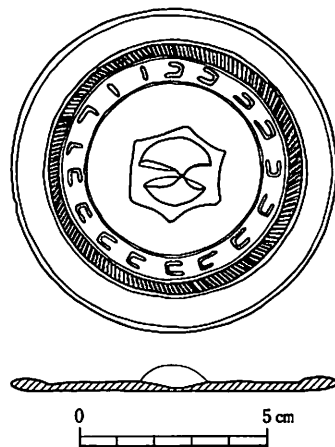
土居妙見山古墳出土の内行花文鏡について

当館では昨年10月6日から11月11日まで、平成2年度特別展「美作の鏡と古墳」を開催した。この展覧会は美作の古墳出土の鏡18面とその関連遺物を集成して、美作の古墳時代社会を考えようとしたものである。そして、鏡野町土居妙見山古墳出土の内行花文鏡（右図）もその一つとして出陳していただいた。その際、本鏡内区の内行花文を簡略化された文様と解し、内行花文帯と櫛歯文帯の間を広い素文帯とし、全体として内行花文鏡のうちでも後出的なものとして評価した（『美作の鏡と古墳』津山郷土博物館1990年）。

ところが、11月4日、記念講演会のため来館された奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長田中琢氏から誤認ではないかとの指摘をうけ、改めて検討したところ、本鏡がいわゆる弥生時代小形仿製鏡の系譜に属することが判明した。この弥生時代小形仿製鏡は北九州を中心に現在150面程知られており、そのうち岡山県内では9面出土している。ここでは、前著の訂正をかねて、改めて本鏡について述べることにする。

直径88mm、鈕径19mm、内区径67mm、鈕厚8mm、内区厚2mm、外区厚3mm、縁厚3mm、重量約99gを測る。鈕は半球形で、鈕孔は磨滅により大きく快られ上端が割れている。鈕の外には小さな内行六花文がある。内行花文の曲率が小さく六角形状となっている。内区外周は擬銘帯と斜行櫛歯文帯からなる。擬銘帯には17個のコ字状の符号が配されるが、磨滅のため変形が著しい。櫛歯文帯は約167個の斜行櫛歯文からなる。外区は素文帯で平縁である。縁の端部は丸い。鏡面はわずかに凸状となり、錆化がはなはだしい。今、錆防止のため両面にニスが塗られている。銅質・鋳りともに不良で緑褐色を呈す。

本鏡は弥生時代小形仿製鏡のうち、高倉洋彰分類の内行花文日光鏡系仿製鏡第Ⅲ型b類に属すると思われる（高倉洋彰『日本金属器出現期の研究』学生



内行花文鏡実測図 土居妙見山古墳出土

社1990年)。この第Ⅲ型b類は従来愛媛県1、島根県1、岡山県2、大阪府2、愛知県1、群馬県1の計8面が知られており、弥生時代終末期ないし古墳時代初頭に瀬戸内から近畿にかけての地で独自に製作されたものと考えられる（高倉洋彰前掲書）。本鏡に近似する百間川原尾島遺跡中須賀調査区土城84出土鏡は、百間川後期Ⅲ（弥生時代後期後半）の年代が与えられており（正岡睦夫編『百間川原尾島遺跡2』岡山県教育委員会1984年）、本鏡の製作時期についても、それとほぼ同様の年代と考えてよいだろう。

前著では本鏡の製作年代を新しく考えたため、土居妙見山古墳の築造時期を前Ⅲないし前Ⅳ期とした。しかし今は、埋葬施設が粘土槨であること、もう一つの内行花文鏡の特徴などからして、前Ⅱ期とするのが適当と考える。とすれば、本鏡の製作から古墳への埋納まで半世紀程の年代幅があることになる。これは1人の首長の在位期間としてはやや長きにすぎるので、おそらく本鏡は首長から首長へ伝世されたものであろう。

なお、本鏡は個人蔵で鏡野町歴史民俗資料館に保管・展示されている。

平成3年度津山郷土博物館友の会入会の御案内

より多くの人たちに博物館を利用していただくために、津山郷土博物館では、次の要領で「津山郷土博物館友の会」の会員を募集します。

1. 会員になると……………

- (1)津山郷土博物館の常設展・特別展・企画展が無料で観覧できます。
- (2)博物館主催の「美作の文化財めぐり」(年4回開催)に参加できます。
- (3)「博物館だより」(年2回発行)や講座・講習会など博物館に関する情報をお知らせします。
- (4)津山洋学資料館・津山弥生の里文化財センターの入館料が割引されます。

2. 会員になるには……………

- (1)申込資格 どなたでも会員になれます。
- (2)会費 一般1,000円、中学生以下500円です。
- (3)申込方法 住所・氏名(フリガナ)・性別・年齢・郵便番号・電話番号・会員種別を記入して、直接か郵便で博物館にお申し込みください。
- (4)申込期間 平成3年4月2日から平成4年2月29日まで。
入会手続きが完了しますと、会員証をお渡しします。

企画展 古絵図の世界

3月16日(土) ▶ 5月6日(月)

絵図という言葉は独特の響きをもっています。それは、絵画でもなく図面でもないという、その性格の曖昧さからくるものですが、それだけに親しみやすい歴史資料でもあります。この古絵図展では、近世の津山藩を知る上で欠くことのできない、貴重な絵図を展示しています。

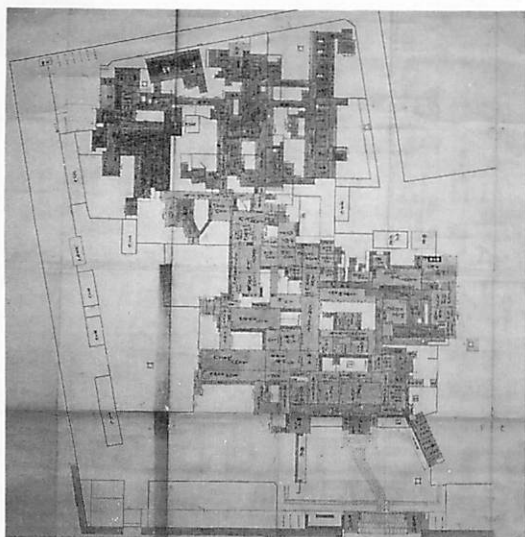
絵図は芸術的な絵画とちがって、何らかの実生活上の目的を持って作成されています。ですから、絵図を見る場合にまず大切なことは、何時、誰が、何のために作成したのか、あるいはさせたのか、を考えると、と言えます。

今回の展示品でいえば、例えば国絵図があります。国絵図には、幕府が作成させた絵図と、各藩が独自に作成した絵図があります。幕府が各藩に命じて作らせた国絵図は、様式が統一された美しいもので、実際に使用するためではなく、幕府の権威を示すための政治的な目的で作成されています。

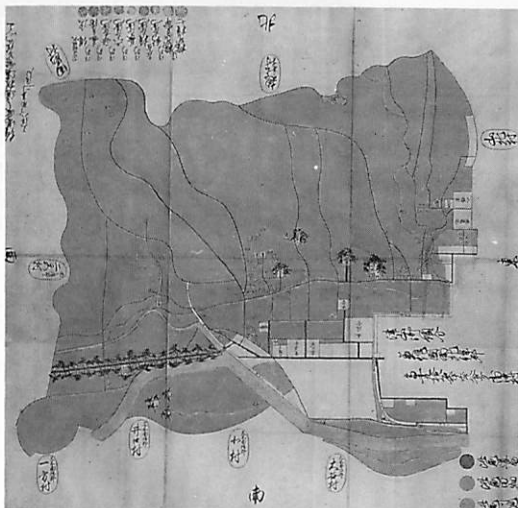
それに対して、各藩でそれぞれの目的によって作成された国絵図は、また様式も表現も異なっています。

次いで、大切なのはよく見て、知識を総動員して考えることです。絵図からどれだけのことが読み取れるのか、それは、あなた次第なのです。

ここに写真で紹介してあります江戸鍛冶橋藩邸図は、藩邸建築物の平面図ですが、ただ間取りが分かるだけではありません。鍛冶橋という名から、この藩邸の場所が江戸城内であることを知れば、津山松平藩が親藩であったことを思い出すでしょう。大名



江戸鍛冶橋藩邸図 本館蔵



小田中村絵図 本館蔵

の生活の場に、表向と奥向があったことを知っていれば、絵図の色分けの意味を理解できるでしょう。更に、津山藩の江戸藩邸が、度々火災にあっていることが知らされれば、いったい何時頃の時期の建物か、再建にどのくらいの経費がかかったのか、様々な疑問が浮かんでくるはずです。

もう1枚の写真、これは小田中村の絵図です。描かれたのは天保8年、同じ様式で10数枚あります。つまり、同じ時期に10数か村の絵図が作成されたわけです。伝来したのは大庄屋の家ですから、自分の管轄の村々のものだけを持っていたのでしょうか。しかし、これは大庄屋が、自分が欲しくて描かせたものではありません。藩に提出するためで、その作成意図は藩の側にあることになります。あるいは、この時期が、幕府の命による全国的な、天保の国絵図改訂作業中であったことを考慮すれば、その目的は幕府に行き着くかも知れません。

絵図の内容を見てみましょう。城下町の西のはずれの寺町あたりと、見事な松並木が描かれています。絵画的な要素は少ないのですが、素人の手になるとは思えません。いったい誰が描いたのでしょうか。

このように、見れば見るほど様々な疑問が浮かんできます。まさしく興味は尽きない、というところでしょうか。

今回の企画展では、いままで公開されたことのない、大坂蔵屋敷の図や、幕末維新期には津山の尊王派藩士の活躍の場となった京都藩邸図なども展示しています。

時を経て伝えられた数々の絵図を通して、津山藩の歴史探訪をお楽しみください。

平成3年度 博物館のスケジュール

行事名 日程	展 覧 会	古文書講座 戦国文書を読む	古典講座 魏志倭人伝を読む	文化財講座 鉄と古代社会	美作の文化財めぐり (友の会)	夏休み子供歴史教室 弥生土器をつくる	展 示
4	3.16 企画展 古絵図の世界						
5	5.6			● 5.16			● 5.9
6		● 5.22		● 5.30	● 6.2		● 6.9
7		● 6.26		● 6.13			
8		● 7.24		● 6.27			
9			● 7.19	● 7.11		● 7.25・26	
10	10.12 特別展 広瀬台山					● 8.20	
11	11.10	● 9.25	● 9.20		● 9.22		
12		● 10.23	● 10.18				
1		● 11.27	● 11.15		● 11.23		● 11.13
2				● 1.17			● 12.13
3		● 1.22	● 2.21				
		● 2.26	● 3.20		● 3.15		
		● 3.25					

<博物館入館案内>

- 開館時間 午前9:00～午後5:00
- 休館日 毎週月曜日・祝日の翌日
12月27日～1月4日 その他
- 入館料 小・中学生 100円 (80円)
高校・大学生 150円 (120円)
一 般 200円 (160円)

※ () は30人以上の団体

大博物館だより No.5

発行年月日 平成3年4月2日
編集・発行 津山郷土博物館
〒708 岡山県津山市山下92
TEL(0868) 22-4567
印刷 岡印刷所

大 は、旧津山藩の槍印で剣大といい、現在津山市の市章である。